

学校評価アンケート(保護者) 考察※児童との比較も合わせて

◇児童数 309 人に対し、保護者からは 304 人分の提出があった。提出率は 98.4%で昨年度の 90.4%と比較すると 8% (24 名) 増加している。原因は担任が提出の呼びかけを継続したことと、学校の教育活動への協力や学校評価に対する保護者の意識向上が考えられる。今年度、評価項目の文言は昨年と同じである。

1 子どもは、学校で楽しく過ごしている。

本校は、子ども達にとって“楽しい学校”を目指している。「大体そう思う」を含めると、保護者・児童共に 96%が良好ととらえている。また、保護者数と児童数が近似していることより、保護者は児童の心の声を把握していることがわかる。楽しくないと回答した 4%の児童の声に耳を傾け、原因を探り、組織で問題の解決にあたりたい。

2 子どもは、学習の基礎・基本(読み・書き・計算など)が身につけている。

83%の保護者が良好ととらえている。昨年度と比較すると、あまり大きな変化はないが、「そう思う」が 3%減少し、「大体そう思う」が 2%増加している。それに対して、児童の 92%が、「学校での学習は楽しく、わかりやすい」と回答しており、昨年度に引き続き 90%越えの結果となった。今後も、「一人読みプリントの活用」「西つきチャレンジタイム」の取り組みの工夫、家庭学習における反復学習の習慣化、学習のスキルの時間を強化して子ども達に力を付けていきたい。

3 子どもは、宿題や家庭学習の学習習慣が身につけている。

保護者の 76%が良好ととらえているが、昨年度より 2%減少している。「家庭学習や読書を進んで行っている」と回答した児童も 79%で昨年度より 2%減少した。今年度の重点に「学力の定着」を掲げ、家庭学習時間の目標数値を設定したり、個に応じた家庭学習課題を与えたりしてきたが、評価数値の低下傾向が続いている。今後は更に、家庭と連携を密に働きかけていく。

4 子どもは、あいさつや時間を守るなどの基本的な生活習慣が身につけている。

保護者の 84%が身に付いていると感じており、昨年度と同じである。児童の意識も 4%増加している。しかし、本年度の重点目標でもある「相手に伝わるあいさつ」という観点では、まだ、不十分である。挨拶は心の扉である。挨拶の大切さを伝えたり、挨拶をする心地よさを体験させたりして、挨拶が学校・地域にあふれる学校にしていきたい。

5 子どもは、人の気持ちを理解した言動がとれている。

保護者の 86%が、人の気持ちを理解した行動が取れていると感じており、昨年度とほぼ同じである。また、児童の 94%がなかよく生活していると回答しており良好である。子ども達は喧嘩やトラブルを経験して成長をしていく。「けんかはだめ」という指導ではなく、相手の気持ちを考え、自分の言動を見直すことができる児童の育成に力を入れていきたい。

6 子どもは、学校行事(運動会、歌声発表会、持久走大会、校外学習)に意欲的に参加している。

保護者の 97%が、良好ととらえており、アンケートの中で意識がいちばん高い結果となった。子ども達のがんばる姿を保護者が感じ取っているのであろう。子ども達は行事で成長する。全力で行うことで、さらに成長のベクトルは大きくなる。また、保護者や地域の方に参観していただくことで、子ども達の達成感や満足感も倍増する。今後も、保護者や地域の方に、各行事の目的や目標等をお知らせし、さらなる育成を目指したい。

7 子どもは、非常災害時の避難行動がわかっている。

99%の児童が良好であると回答したが、保護者は 85%と意識の差が見られた。児童は、地震や火事の避難訓練を体験し、避難行動がおおよそわかっている。昨年度同様に、引き渡し訓練を実施したが保護者の参加率は低い。次年度も避難行動が反射的に取れるように繰り返し訓練を積み重ねていく。同時に保護者・地域に学校便り・学年便り・HP を活用し防災意識の向上を図っていきたい。

8 学校は、子どもの話を聴こうとしている。

保護者の83%が良好ととらえており、昨年より4%増加した。学校では、定期的に、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」や「いじめアンケート」を実施したり、面談したりして、指導に当たっている。また、問題行動が起こった時、管理職や関係職員への報告・連絡・相談を行い、チームで対応している。良好でないと回答した保護者は9%で、昨年度より4%減少した。今後も子ども達の声を傾聴し、真摯に保護者の気持ちに寄り添っていく。

9 学校は、子どものことについて連絡や相談をした際に丁寧に対応している。

保護者の91%が良好ととらえており、昨年より5%増加した。8の「子どもの話を聞こうとしている」も増加しており、日々誠実な対応を心掛けてきた教職員には嬉しい数値である。今後も誠実で丁寧な対応をすすめることで、「また、連絡したい」と思える学校を目指したい。

10 学校は、子どもの安全や事故防止に力を入れている。

保護者の85%が良好ととらえている。学校では、4月に、「交通安全教室」を開催し、安全な道路の歩き方や自転車の乗り方について繰り返し指導してきた。また、市教委や警察と連携し学区内の交通安全標識の整備や、危険遊具の修繕・撤去を行った。環境を整備しても児童の安全に対する意識が低ければ安全を確保できない。児童の危険予測能力を育てていく。

11 学校は、地域行事に協力的である。

今年度も、産業まつり、ふれあいキャンプ等、地域行事に参加するよう声を掛け地域交流を進めてきた。また、校庭・体育館は、学校の学習や行事に支障のない範囲で開放している。保護者の74%が良好ととらえているが、「学校はやってもらうばかりだ」と受け取られないよう、全教職員で対応していく。

12 学校の様子を学校・学年だよりやホームページ、懇談会等で知ることができる。

保護者の84%が良好ととらえているが、昨年より4%減少した。学校だより、学年だより等は紙面が限られているので、HPでは学校行事を画像や音声で紹介するなど工夫させてきたが、「HPがわかりにくい」といったご意見も寄せられており、工夫改善をすすめていく。また、PTAと協力して懇談会の参加率を上げる工夫を検討していく。

参考1 学校のホームページを閲覧する。

保護者の31%がよく閲覧しているが、昨年より6%減少している。HPは学校の教育活動を情報発信する重要なツールである。12の項目でも減少していることを真摯に受け止め、内容を充実させて学校教育活動の保護者・地域への理解を高めていきたい。

参考2 子どもは、本に親しんでいる。

児童の79%は、「家庭学習や読書を進んで行っている」と回答している。しかし、この項目で良好と回答した保護者は55%であった。家庭での読書環境が整っていなかったり、家庭で子どもが本に接する時間が少ないことが原因として考えられる。図書室の貸し出し数が一万冊を超え、充実してきた学校の読書活動を、家庭へも広げていきたい。

保護者自由記述 ※そのまま記載

- ・学校のホームページはわかりにくい。情報が遅いと思う。(1名)
- ・学校のホームページは見にくかったり、のらなかったりで、あまり見なくなりました。(1名)
- ・担任の先生は問題があると迅速に対応して下さいます。また、子どもの話をよく聞いてくれるので、大変ありがたいです。(1名)
- ・人数の多い学校に比べて、西小は少ないので比較的先生方の目が行き届いている環境であってほしいと思っています。家庭以外で子ども達に人生のいろいろな教訓をたくさん教えていただいて、いじめのない仲良しの楽しい学校生活をサポートしていただきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。(1名)
- ・ご指導いただきありがとうございます。今後も子どもたちが安全に安心して学校生活がおくれる様に協力していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。(1名)
- ・「気心の知れた友達との間でしか使っていない」と本人は言っていますが、年頃なのかわざわざ汚い言葉を使っているのが気になり、よく注意しています。(1名)
- ・特に気になる点はございません。(2名)
- ・特にありません。ありがとうございました。(2名)